

BCAO 関西支部 第 63 回勉強会議事録

- (1)日時: 2012 年 2 月 15 日(水) 18:30~20:30
- (2)場所: シミズ・ビルライフケア関西
- (3)座長: 西濱
- (4)書記: 田中
- (5)出席者: 24 名(順不同、敬称略)
角、川口、日下、萩原、柳父、伊藤、田中、西濱、野原、藤村、紅谷、梅田、北田、廣本、佐竹、佐原、鶴谷、徳永、能任、速水、藤本、増穂、鷲山、オブザーバー 山野
- (6)議題: タイの大洪水とBCM 発題者 廣本氏

■ 廣本氏の報告内容

内容

- 1. なぜ大規模な洪水が発生したのか?
- 2. なぜ日系企業は被害を受けたのか
- 3. 今後、どう対応していくのか

バンコクから北側のエリア、タイ国土の半分程度が冠水した。10 月の 2 週目から日系企業の浸水被害が始まりニュース報道が盛んになった。タイ国内では 7 月後半から河川の氾濫・冠水等の被害が起こっていた。10 月初旬以降、計 8 工業団地が浸水・冠水被害が発生した。

タイには全 77 都県あるが 64 都県が何らかの被害を受けた。タイの北部のチェンマイなどは大丈夫だったが、ほとんどが被害を受けたと言える。バンコク周辺についても洪水の被害を受けた。洪水の被害は時間によっても変わるが、昨年末にはバンコクの北部の一部までに縮小された。

1. なぜ大規模な洪水が発生したのか?

① 大量の水はどこからきたのか

例年の 1.2~1.8 倍の雨がタイ北部に降雨(春から夏にかけて。特に 5~7 月)
+ 10 月上旬にチャオプラヤ川流域の広い範囲で 100~200mm の降雨

② 洪水は回避できなかったのか

タイ国内には 2 つ大きなダムがある。プミボルダムとシリキットダム。
シリキットダムは 10 月初頭にはダムが満水になり、河川に放水した。その結果、河川が破堤した。
9 月の中旬から下旬にかけてアユタヤ(工業団地が被害を受けたエリア)で破堤。8 か所大きく破堤。
大きなところでは 1300m 破堤。河川の水が引かなければ修復は難しく、大規模な洪水となった。

③ なぜ長期にわたって水はひかないのか

アユタヤとバンコクは距離 100km だが、その間の標高差 2m しかない。勾配が少ないことで北側から水が流れにくい、さらにバンコク南方にある太平洋の潮位変動の影響を受け、バンコクも満潮時(夜)には浸水するほど水が流れなかった。

2. なぜ日系企業は被害を受けたのか

バンコク近郊の 8 工業団地が浸水したが、約半数から多い場所では 8 割の企業が浸水した。
洪水被害として、①設備の浸水 ②軽い設備が浮力で移動 ③工場で使用の油等の流出 ④設備等の汚染がある。特に復旧を遅らせる要因は ④設備等の汚染であり、泥水などの油が含まれた汚水で汚染した設備を復旧させるには洗わなくてはいけない。

3. 今後、どう対応していくのか

① 治水対策を行うべきか

→ハード面でどのような対策を、どのようなレベルまで考えているのか。

水に浸からないようにするため、土嚢や止水板を設置する対策では限界がある。早期に排水するためのポンプを設置する対策も、工場周辺が浸水している状態で排水できる場所がない。

② 海外現地法人にBCPをつくるべきか

→海外の現地法人だけではBCPをつくることは困難。

グローバルな代替が必要な場合、BCPではなく、日頃のSCM管理の中でやってほしい。海外進出のなかで検討すべきである。BCPや海外法人に多くを求めるのは、本社側が難しい。

■ <質疑・応答>

- Q) 勾配がゆるいので浸水がある程度前から予測されると思うが、飛行場で飛行機が被災していたり、工場から金型を移動できなかったのは、避難タイミングが遅かったのではないかな？
- A) そういう声はある。7月か8月の時点で、例年よりも早い段階で大きな洪水が起きていると知らせていた。またタイの政府から発表を受けて、自分達で判断して早めに引き上げたケースもある。工場を停止しなければならなかったが、金型などを移転できたケースもある。2005年にも同じような洪水被害があって、その時も自社は大丈夫だったと思って工場を止め遅れた会社があった。工場が水に浸かる前の10月初頭に、政府よりナワナコンなどいくつかの工場団地の閉鎖命令が出た。その時点でシャットアウトされ、金型を出そうにも出せなかったケースもあった。タイミングを逸したケースが多かった。
- Q) 復旧作業でラインなどを総取替えされていると言われたが、移転をせずにその場で復旧しようとしているのか、他の場所へ移転しようとしているのか。
- A) 正確な数値ではないが、新聞報道である限り日系でも10社程度はタイ国内からの撤退が報じられている。日本や中国から部品を持っていきたい、という会社もある。

次回支部会・勉強会は、3月17日(土)2時～5時。支部会の後に勉強会をおこなう。
場所は、大和ハウス工業の総合技術研究所(奈良)。見学を兼ねて行う。

以上